

## 主 文

本件上告を棄却する。

## 理 由

弁護士梅山実明、同向江瑋悦の上告趣意は、憲法違反を言うけれどもその実質は単なる訴訟法違反又は事実誤認の主張にすぎず刑訴四〇五条の上告理由に当たらない。また記録を調べても同四一一条を適用すべきものとは認められない（上告の申立は刑訴四〇五条に定めてある事由があることを理由とするときにこれを為すことができるものであつて、同法四一一条は上告申立の理由を定めたものではないこと、当裁判所大法廷決定の示すとおりである、昭和二四年（新）れ五号同年七月二二日大法廷決定参照）。

よつて同四一四条、三八六条一項三号により裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和三〇年一月二五日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	井	上	登
裁判官	島		保
裁判官	河	村	又 介
裁判官	小	林	俊 三